

クローバー通信

女性医師へのメッセージ



泌尿器科 釜井隆男

僕がアメリカへ留学した 1990 年代初頭は湾岸戦争で、アメリカ国内が騒然とした時代、5 年間のレジデント後の専門職の選択としては、泌尿器科、脳神経外科、プラスチックサージャリーの 3 つが人気でしたが、一緒に働いた女性医師は数名程度でした。さて、現在のアメリカでは、泌尿器科腫瘍学は、女性医師にとって最後のフロンティアだそうです。全ての領域に女性医師が挑戦し、最後が泌尿器科腫瘍学とは複雑な思いです。確かに、泌尿器科の中でも、排尿領域や小児領域の分野へは以前からも女性医師が積極的に挑戦していました。泌尿器科腫瘍学は文字通り、副腎、腎、腎盂尿管、膀胱、前立腺、尿道、陰茎、精巣、後腹膜の腫瘍を扱いますが、臨床的には手術、薬物療法、放射線療法の適切な選択とその組み合わせ、研究的には分子細胞生物学が中心となりますので、婦人科腫瘍学、消化器系腫瘍学、呼吸器系腫瘍学、頭頸部腫瘍学等と何ら変わらないと思います。さすれば、泌尿器科を専門とする女性医師の絶対数が背景にあったのかもしれませんが。ただし、患者さんの半数近くは女性であり、女性医師の活躍の場は相当あるはずですし、ずっとそのような職場になることを願っておりました。

お陰さまで、今年は、仕事にも積極的に、和と輪を大切にしてくれるとっても魅力的な女性医師を迎える事になりました。男社会の当泌尿器科としては、彼女を中心に、彼女の意見を積極的に取り入れながら、サイエンスとアートが実現可能な、女性医師にとっての魅力的で働きやすい職場を全員で模索し構築していくつもりです。

第 13 回クローバー交流会のご案内

平成 27 年 3 月 4 日(水) 18:00~19:30 クローバーにて

〔ロールモデル紹介〕

産婦人科 学内助教 (卒業 7 年目)	木内 香織 先生
(株)コマツ製作所小山工場 健康管理室長	加藤 梨佳 先生

木内先生は 2 月 1 日に栃木県医師会主催で行われた「医学生、若手医師のキャリアデザインを考える会」にて発表された内容について、加藤先生は産業医として現在に至るまでのキャリアについて話をさせていただきます。スタッフ一同お待ちしております。